

かしわ



No. 19 平成30年1月9日 咲き始めた水仙の花

新年 おめでとうございます

校長 北村 耕一

新年、明けまして おめでとうございます。平成30(2018)年が始まりました。「一年の計は元旦にあり」と言われます。子どもも大人も今年一年の計画や目標、抱負を持って新年の生活を始めていると思

います。この言葉の意味は「計画は早めにしっかりと立てるべきだ」ということだそうで「戒め」だそうです。



何事にも行動が遅い

私にとって「耳の痛い」言葉ですが、言われていることはもっともなことだと理解できます。しかし、頭の中で理解していても行動が伴わないのが私。いつも反省して年を重ねてきています。

そんな私の平成30(2018)年目標は、「留意して健康に過ごす」ということです。この「留意して」という文言が「計画」につながるキーワードではないかと思っています。

好きこのんで「不健康」を望む人はいないと思います。私もそうです。しかし、本やマスコミ等の情報が多数ある中、健康的な生活を送るための努力をしていません。楽をして「健康」を手に入れようとしてしまいがちです。「健康」に生きている方は、食事や運動に気を配っていると思います。中にはストイックな生活の方もいらっしゃいます。その精神力には感服いたします。

私が「留意＝計画」したいと思っていることは、
①睡眠時間を確保する、②生活リズムを崩さない、

③暴飲暴食をしない、④毎日血圧を測る、⑤一日5,000歩を目標に歩く、ということです。目標達成の「階段」の一段の高さを低く設定し、こうした「計画」をやり抜くこと自体が「私の目標」だと思っています。

「健康」とは「ただ疾病や傷害がないだけでなく、肉体的、精神的ならびに社会的に完全に快適な状態であること」と定義されています(ブリタニカ国際大百科事典より)。何事においても「完全」を求めるのは難しいので、個々人が「快適」であれば良いのではないのでしょうか。

毎年、校内で子どもと教職員には「健康第一」と話しています。今年も繰り返しになりますが、同じ事を何回も話そうと思います。自分の「健康」を意識できる人間は、生活していく上で困ることが半減すると思います。

今年も昨年に引き続いて、本校の教育へのご理解とご協力・ご支援をお願いいたします。

今年度着任された教職員の皆さんに今年の「目標や抱負」を聞いてみました。また、故郷のお正月の様子も教えてもらいました。

新年を迎えて、私の抱負 小学部 田中 孝和
新年明けましておめでとうございます。

私のふるさと福岡には、「太宰府天満宮」という有名な神社があります。そこには、「菅原道真」が祀られていて、「学問の神様」として深く信仰されています。お正月になると、多くの参拝客で賑いま

す。私も高校や大学を受験をする際には、

「合格祈願」をしに参拝しました。「菅原道真」は、幼い頃から聡

明で、わずか5歳で「美しや紅の色なる梅の花あこが顔にもつきたくぞある」と和歌を詠んだそうです。梅の花を愛したので、「梅ヶ枝餅」というお餅がいまでも名物になっています。

「菅原道真」を祀った天神社（天満宮）は、全国で1万社以上あり、その一つが久里浜の休の前にあります。そこには、「菅原道真と使いの牛」がただずんでいて、牛の頭と自分の頭を交互に撫でると、知恵を授かり、賢くなるそうです。

（久里浜天神社は校長の久里浜中時代の教え子の家です）

最近、もの忘れがひどいので、私も参拝して、頭がよくなりたいです。（笑）

新年を迎えて、私の抱負 高等部 横山 晃子
あけましておめでとうございます。早いもので、平成30年のスタートです。

年末年始はどのように過ごされましたか？

私は毎年、主人の実家がある岡山へ帰省します。車で片道10時間という大移動ですが、サービスエリアでその土地の名物を食べたり、移り変わる景色を車中から眺めたりして、旅行気分を楽しんでいます。

突然ですが、「あなたは幸せですか？」と聞かれた時に、心から「はい！」と言えますか？私の昨年の抱負は「幸せを感じること」でした。人はついつ



い自分と他人を比べてしまいますよね、、、幸せを感じるということは、簡単なようで難しいことだと思います。幸せの指針は一人ひとりが持つものであり、その指針でしかその人の幸福は計れないのです。新年を迎え、「幸せを感じることを引き続き抱負にしたいと思っています。

皆さんも、何か小さなことから幸せを感じられるように、自分にとっての幸せを大切に、一年を過ごされてみてはいかがでしょうか。

新年を迎えて、私の抱負 高等部 秋葉 俊明

「今年も家族が皆無事で過ごせますように」「家族の皆が自分の目標に向けて努力し少しでもそれに近づきますように」「高2の生徒の体がもう少し丈夫になって、毎日登校することができるようになりますように」「高3生徒が卒業後の進路を踏み出すことができますように」。そして私については、「ろう学校の生徒たちにとって励みになる先生になろう」これが私の今年の新年の抱負です。正確に4つのお願いと1つの抱負と言ったらいいでしょうか。昨年の抱負は上の2つだけだったが、4月から聾教育に携わるようになり生徒と接する中で今年は5つに増えることとなりました。

高等部担任に身を置く立場として、巣立つための準備をどのように整わせればいいのか常に思い悩んでいます。また、生徒の思いをしっかりと捉え自分の気持ちや考えをきちんと表現することができる、そして生徒の成長の糧となるような関わり方や指導ができる、そのような自分にならなければと思いを強くする昨今です。

（右の写真は故郷山形の国の重要無形民俗文化財 羽黒山松例祭の様子です）

